



# 湖 都 通 信

62

2010.3.15

2009 年度総会報告 . . . . . 2  
2009 年度総会資料 / OB 会紹介 . . . 3~4  
「湖医会」新役員の挨拶 . . . . . 5  
関東支部会報告記 . . . . . 6~7

訃報 . . . . . 8  
看 2 期生卒後 10 年同期会 . . . . . 9  
保健師部会 . . . . . 10  
LITTLE WINDOW . . . . . 11

## 2009年度総会 渡辺会長再選、7期目突入!

新たに制定された『「湖医会」役員選出規程』に基づき、  
新役員が選出されました。  
2011 年は「湖医会」設立 30 周年を迎えます。支部会  
の設立など記念事業案とすることが承認されました。

## 第9回『湖医会賞』候補者の推薦を受付中!!

応募方法は、<http://www.koikai.org> または、11 頁をご覧ください。

## 「西医体・西コメ等」応援キャンペーンが始まります

今年も始まります!  
多数の応募をお待ちしております。  
応募方法は、<http://www.koikai.org> または、11 頁をご覧ください。

# 2009年度 同窓会総会議事録

- 1, 2008年度事業報告及び決算額(2008.9.1~2009.8.31)は資料通り承認された。
- 2, 役員の変更について
  - 1) 選挙管理委員会委員の立会者が承認された。
  - 2) 選挙までの経緯について、委員から報告があった。
  - 3) 選挙手続き
    - ・幹事(各期) / 原案どおり承認された。
    - ・幹事(期外) / 原案どおり承認された。
    - ・会長 / 渡辺会長から意志表明があり、再任が承認された。
    - ・副会長 / 原案どおり10名の候補者が承認された。
    - ・監査役 / 原案どおり2名の候補者が承認された。
  - 4) その他
    - 事務局担当副会長に相見副会長が承認された。
    - 選挙管理委員会は、1ヶ月以内にホームページ等により新役員の公示を行うことが確認された。
- 3, 2009年度事業計画及び予算額について
  - ・奨学金については特別会計として整理すること、また、予算案については、来年度の湖医会設立30周年記念事業費用として、積立費3項目の計600

- 万円のうち500万円を記念事業等積立費に、50万円ずつをその他の積立費に修正することとし、その他については原案どおり承認された。なお、次の課題については、幹事会で検討することとなった。
- ・湖医会賞
    - 積極的に公募がなされるよう公募方法等を見直す。
    - ・新共用棟(CMC)への設備寄付
      - 大学の意向を確認し、記念事業の一環として実施を検討する。
  - 4) 会則の一部改正について
    - ・各卒業年度の幹事のうち、新卒幹事の選出方法及び任期について整備を行うもので、原案(資料6)どおり承認された。
  - 5) その他の議案
    - ・奨学金制度について
      - 貸与対象者の拡大等貸与条件の見直しについて、奨学金委員会で検討することとなった。また、湖医会に学生からの相談を受けられる場所の設置について意見があり、継続して検討していくこととなった。
    - ・支部会の設立について
      - 北陸・信越地区の状況が報告され、各地区の支部会設立について、30周年記念事業として取り組んでいくこととなった。

## 主な資料

### 1, 2008年度事業報告

- 1, 湖都通信の発行 58号・59号・60号を発行した
- 2, サービス事業
  - 1) 会員へのサービス
    - ・『湖医会メール』の配信：登録数 約1740名
    - 2008年9月~2009年8月まで42通配信
    - 毎月1回「マンスリーメール」配信
  - 2) 病院情報サービス：7病院が登録
  - 3) 医師賠償責任保険
    - ・加入者数：308名うち会員：282名(新卒57名)、
    - 残りは他大卒滋賀医大勤務者
    - (昨年 加入者数：222名 うち会員：192名(新卒41名))
    - ・事務手数料として¥401,655の収入があった。(昨年¥273,000)
- 3, 会則、規程の整備
  - 1) 会則一部改正：2008年10月25日から施行
  - 2) 役員選挙：選挙管理委員会を立ち上げ、「役員選出規程」に基づき、
    - ・2009年5月21日役員選挙公示
    - ・2ヶ月の立候補受付期間内に候補者がなく、選挙管理委員会合同幹事会(2009.8.10)で役員選挙原案を協議、総会へ提出
- 4, 湖医会賞
  - 1) 2008年度第7回「湖医会賞」受賞講演会(08.10.25)を開催
    - 朝比奈靖浩氏(医8)・橋本秀行氏(医10)
  - 2) 2009年度第8回「湖医会賞」受賞者の選考(09.7)
    - 応募者1名 該当者なし
- 5, 同期会を共催した
  - ・卒後20年同期会・医8期生(09.3.14琵琶湖ホテル) ¥100,000の補助
  - ・卒後10年同期会・医18期生(09.2.14琵琶湖ホテル) ¥100,000の補助
  - ・卒後10年同期会・看1期生(08.11.22京都駅前がんこ) ¥100,000の補助
  - ・卒後5年同期会・看7期生(09.3.1café&cake Sugary) ¥50,000の補助
- 6, 学生へのサポート
  - 1) 国試説明会で「医師賠償責任保険」加入の案内(08.11.20)

国試前なので案内は手短にし、医師賠償保険加入意思確認書を受け付けた

- 2) 卒業祝賀会を学生と共同運営・09.3.25
- 3) 「西医体」応援キャンペーン・09.6(19口¥57,000)
- 4) 活動支援
  - ・若鮎祭と『湖医会賞』講演会の共催。実行委員会へ寄附¥200,000
  - ・卒業生祝賀会を主催。¥100,000
  - ・新入生歓迎委員会への援助金¥100,000
  - ・看護学科卒業生と学生の交流懇談会への援助金¥50,000
- 5) 『湖医会奨学金』：1名・『藤原よしみ奨学金』：3名に貸与
- 6) その他
  - ・新入生オリエンテーションで「湖医会」を紹介(09.4.7金子副会長)
  - ・関東支部会への参加案内
- 7, 大学への協力
  - 1) 寄附・滋賀医学国際協会へ寄附¥100,000、開院30周年記念祝に¥300,000
  - 2) 会議に参加・関連病院長会議/滋賀医学国際協会/経営協議会/学外有識者会議
  - 3) 行事に参列・卒業式(09.3.25渡辺会長) / 入学式(09.4.7金子副会長)
  - 4) 協力・依頼のある各部署へタックシール等の提供 ほか
  - 5) 『地域「里親」による医学生支援プログラム』の実施への協力
- 8, 支部会への援助
  - 1) 関東支部会(09.8.29)：昨年に引き続き馬場学長が出席。それに伴い今年から「湖医会」本部から役員派遣(中島副会長出席)
  - 2) 保健師部会への援助・事務支援
- 9, 「医師賠償責任保険」加入者を拡大していく：
  - 昨年より80名加入者数増加。新卒者を確実に毎年継続して加入させる
- 10, 平成20年度版会員名簿の発行・2009年3月発刊した。
- 11, その他
  - 1) 新しい共用棟(CMC)内に事務局移転(09.5)、備品寄附した。

# 主な資料

役員・幹事一覧 (任期は2009年10月～2011年10月まで)  
(敬称略)

会長	渡辺一良 (医2)	副会長	西村明儒 (医7)
副会長	加藤正二郎 (医2)		茶野徳宏 (医10)
	中島滋美 (医2)		白石知子 (看1)
	野村哲哉 (医2)		西尾ゆかり (看2)
	相見良成 (医5)	会計監査	来見良誠 (医1)
	九嶋亮治 (医6)		向所賢一 (医14)
	金子均 (医7)		

医学科幹事 <各期> ( )は期生

笹原正清 (1)	糸島崇博 (10)	園田文乃 (20)
佐藤 功 (1)	松下亮二 (10)	早藤清行 (20)
高橋正行 (1)	石川弘伸 (11)	竹林紀子 (20)
藤宮峯子 (1)	福留寿生 (11)	三村朋大 (20)
永田 啓 (2)	一色啓二 (12)	伊藤 岳 (21)
山下眞木夫 (2)	高瀬年人 (12)	桐ヶ谷大淳 (21)
阿部 元 (3)	千野佳秀 (12)	望月昭彦 (21)
埜田和史 (3)	福田方子 (12)	斎藤 実 (22)
高橋雅士 (3)	浜中恭代 (12)	山川 勇 (22)
若林賢彦 (3)	尾関祐二 (13)	小出正洋 (23)
石澤命仁 (4)	林 寛子 (13)	嶋 綾子 (23)
古家大祐 (4)	前田清澄 (13)	栗本直樹 (24)
高田政彦 (4)	池原 譲 (14)	佐野剛視 (24)
市川正春 (5)	門脇 崇 (14)	寺村真範 (24)
小川 勉 (5)	佐々木靖之 (14)	安田真子 (25)
駒井 理 (5)	小森英寛 (15)	龍神 慶 (25)
庭川光行 (5)	真田 充 (15)	藤野 晋 (26)
河崎千尋 (6)	河端秀明 (16)	文 一恵 (26)
黒川 清 (6)	黄瀬一慶 (16)	青木信也 (27)
竹下和良 (6)	吉川浩平 (16)	井上明星 (27)
藤田泰之 (6)	坂口知子 (17)	瀬戸瑠里子 (27)
山出一郎 (6)	四方寛子 (17)	宮田 悠 (28)
山本育男 (7)	津川拓也 (18)	森田幸弘 (28)
乾 武広 (8)	山根哲信 (18)	八木典章 (28)
内田康和 (8)	北村将司 (19)	川西麻友 (29)
牧浦弥恵子 (8)	竹村しづき (19)	田中克典 (29)
野口俊文 (9)	松井克之 (19)	松井 潤 (29)

看護学科幹事 <各期>

上野さおり (1)	廣峰景子 (4)	野上朋子 (8)
本多綾子 (1)	宮原 梢 (4)	宇佐美亮子 (9)
上間美穂 (2)	谷 智子 (5)	平岡悠里 (9)
西田佳菜 (2)	福家妙子 (5)	辻 沙緒理 (10)
和田明紀 (2)	赤澤仁美 (6)	大庭涼子 (11)
村松由香里 (2)	川越のぞみ (6)	中込昌幸 (11)
亀田諭可 (3)	矢野美恵子 (6)	赤澤有紀 (12)
服部すなを (3)	小林 愛 (7)	野添弥生 (12)
井上直子 (4)	都間かおり (7)	
杉山鑑恵 (4)	宮尾優美 (7)	

幹事 <期外>

加藤正二郎 (2)
中島滋美 (2)
野村哲哉 (2)
相見良成 (5)
九嶋亮治 (6)
金子均 (7)
西村明儒 (7)
茶野徳宏 (10)
白石知子 (看1)
西尾ゆかり (看2)
村下 淳 (11)
田中裕之 (16)

## 2008年度一般会計決算報告内訳 (2008.9.1～2009.8.31)

<収入の部>		<支出の部>	
前年度繰越費	5,534,635	事務費	584,070
本年度会費 (郵便局)	8,226,069	会議費	45,772
本年度会費 (遊覧銀行)	1,154,600	記念品費	153,090
本年度会費 (口座振替)	984,000	渉外費	10,750
広告費	2,200,000	備品費	498,880
協賛費	20,000	定期刊行物費	1,085,539
医師賠償責任保険集金事務手数料	401,655	名簿費	1,908,895
雑益費	718,635	通信費	449,155
		寄付費	300,000
		人件費	4,564,179
		退官教授祝賀費	40,000
		会員慶弔費	10,500
		口座振替委託等手数料	18,700
		同期会補助費	180,390
		部会補助費	56,665
		学生補助費	0
		湖医学会費	487,000
		卒業祝賀会費	160,000
		新入生歓迎会費	100,000
		看護学科交流会費	50,000
		同窓会館設立準備費	200,000
		記念事業等積立準備費	150,000
		名簿積立準備費	150,000
		雑費	9,060
		附属病院開院30周年祝費	300,000
		次年度繰越費	7,726,949
計	19,239,594	計	19,239,594

## 2009年度 予算 (案) (2009.9.1～2010.8.31)

<収入の部>		09予算額	08予算額	差引増減額
繰越金	前年度繰越	7,726,949	5,534,635	2,192,314
会費	本年度会費	10,000,000	8,300,000	1,700,000
広告費	広告費	700,000	2,400,000	-1,700,000
事務手数料	医師賠償責任保険集金手数料	500,000	250,000	250,000
雑収入	利子及び雑入	80,000	0	80,000
	計	19,006,949	16,484,635	2,522,314

<支出の部>		09予算額	08予算額	差引増減額
事務費		6,660,000	6,317,600	342,400
	消耗品費	650,000	650,000	0
	備品費	150,000	150,000	0
	通信費	500,000	500,000	0
	人件費	5,000,000	4,800,000	200,000
	労働保険等事業主負担費	20,000	0	20,000
	口座振替委託等手数料	40,000	17,600	22,400
	渉外費	100,000	100,000	0
	部会参加費	200,000	100,000	100,000
会議費				
	会議費	500,000	100,000	400,000
事業費		2,460,000	5,260,000	-2,800,000
	定期刊行物費	1,600,000	1,600,000	0
	名簿費	0	2,200,000	-2,200,000
	湖医学会費	0	700,000	-700,000
	卒業祝賀会費	200,000	200,000	0
	記念品費	180,000	180,000	0
	会員慶弔費	30,000	30,000	0
	同期会費	450,000	350,000	100,000
助成費		880,000	1,180,000	-300,000
	退官教授祝賀費	30,000	30,000	0
	新入生歓迎会費	100,000	100,000	0
	看護学科交流会費	50,000	50,000	0
	学生補助費	400,000	200,000	200,000
	若狭祭補助費	200,000	200,000	0
	国際協力会補助費	100,000	100,000	0
	附属病院開院30周年祝費	0	500,000	-500,000
積立費		6,000,000	500,000	5,500,000
	同窓会館設立準備費	2,000,000	200,000	1,800,000
	記念事業等積立費	2,000,000	150,000	1,850,000
	名簿積立準備費	2,000,000	150,000	1,850,000
予備費		2,506,949	3,127,035	-620,086
	予備費	2,506,949	300,000	2,206,949
	次年度繰越費	0	2,827,035	-2,827,035
	計	19,006,949	16,484,635	2,522,314

## 2008年度 特別会計報告

1. 記念事業積立費			
収入の部		支出の部	
前年度繰越費	1,097,217	残高証明書手数料	315
同窓会より繰入	150,000		
預金利息	774	次年度繰越費	1,247,676
計	1,247,991	計	1,247,991
2. 同窓会館設立準備費			
収入の部		支出の部	
前年度繰越費	3,511,876	残高証明書手数料	315
同窓会より繰入	200,000		
預金利息	2,502	次年度繰越費	3,714,063
計	3,714,378	計	3,714,378
3. 名簿発行準備費			
収入の部		支出の部	
前年度繰越費	1,004,359	残高証明書手数料	315
同窓会より繰入	150,000		
預金利息	708	次年度繰越費	1,154,752
計	1,155,067	計	1,155,067

滋賀医科大学同窓会「湖医会」会則の一部改正 (案) 資料6

滋賀医科大学同窓会「湖医会」会則の一部改正 (案)

滋賀医科大学同窓会「湖医会」会則(1981年(昭和56年)3月25日制定)の一部を次のとおり改正する。

- 第8条第2項から第5項を1項ずつ繰り下げ、第2項を次のように加える。  
 2. 新卒幹事は、前項に関わらず幹事会で承認する。  
 第9条に、第2項を次のように加える。  
 2. 新卒幹事の任期は、前項に関わらず次の役員改選までの期間とする。  
 付則 この会則は、2009年10月24日から施行する。

(改正理由)

各卒業年度の幹事のうち、新卒幹事の選出及び任期について整備するものである。

滋賀医科大学同窓会「湖医会」会則新旧対照表

現 行	改 正 案
(前略)	(同左)
第8条 役員を選出 1. 常任幹事以外の上記役員は、總會において正会員からこれを選出する。但し、監査役は正会員に限らない。 2. 常任幹事は会長が幹事の中から選び、幹事会で承認する。 3. 監査役は他の役員を兼任できない。 4. 幹事は、役員が欠けたときは、仮役員を任命できる。但し、仮監査役を任命することはできない。 5. 役員選出の運営は役員選出規定に基づいて行う。	第8条 役員を選出 1. 常任幹事以外の上記役員は、總會において正会員からこれを選出する。但し、監査役は正会員に限らない。 2. 新卒幹事は、前項に関わらず幹事会で承認する。 3. (同左) 4. (同左) 5. (同左)
第9条 役員任期 役員任期は、2年とする。但し、再選を妨げない。任期満了後であっても、後任者の選出あるまでは、その務を行わなければならない。	第9条 役員任期 1. (同左) 2. 新卒幹事の任期は、前項に関わらず次の役員改選までの期間とする。

2008年度 奨学会計報告

収入の部		支出の部	
前年度繰越	3,742,841	振込料金	2,270
同期会寄付	165,785	奨学金貸与	840,000
奨学金返還	588,000	残高証明	500
収入計	4,496,626	支出計	842,770
		「湖医会」奨学金残	3,653,856

「藤原よしみ」奨学金

前年度繰越	199,300	奨学金貸与	180,000
奨学金返還	0	振込料金	560
収入計	199,300	支出計	180,560
		藤原奨学金残	18,740

# OB会

## スキー部

ご紹介しま〜す!!

西医院 院長 西 俊希 (医13期生)



2009年12月26日に京都で、スキー部OB会兼現役激励会が催されました。スキー部は滋賀医大開学間もない頃に2期生の加藤先生中心に発足しました。「西医体」浜松医大戦中心に活動を続けておりました。最盛期には西医体総合入賞をはたし、ノルディックでは二人のゴールドメダリストを輩出しました。20期生あたりまでは活動が継続されていましたが、その後部員がいなくなり長い間休部状態でした。その間もOB会長の2期生中澤先生を中心にほそぼそとOB会は行われておりました。現在6回生の青森出身の浅利君の入学を機に検査部の茶野准教授を顧問に迎えスキー部は新たに復活しました。現在、キャプテンの羽間君を中心に約20人の部員が活動しております。当日は元コーチの山川先生(元保健管理学講師、現在大阪教育大学教授兼大阪教育大学附属池田中学校長)や加藤先生を中心に2〜6期生のOBが集まり現役も10人以上出席し、わいわい楽しい会になりました。今後も年に1〜2回OB会は行われる予定です。若いOBやスキー部以外の諸先生方も、懐かしい顔を見に是非御参加下さい。また、スキー部MLに登録希望の方は、ご連絡下さい!

# コンピューター部

川瀬 満智子 (看1回生)



2009年12月12日土曜日、京都でコンピューター部のOB会が行われました。今回のOB会には、顧問の堀池教授をはじめ、OBの来見准教授、藤岡先生、村田先生、坂田先生ら大勢の方が参加して下さいました。最初に、堀池教授より乾杯の挨拶があり、和やかに会は始まりました。会の中で堀池教授は、現代のパソコンツールの使い分け、目的に合った機能の取捨選択についてお話し下さり、部員の私たちにとってとても楽しく、有意義な会となりました。今年度はコンピューター部として若鮎祭で喫茶店を出店したりと様々な活動をした年でした。来年の新歓コンパでは、より多くの新生を囲めるようお願いしながら、コンピューター部の更なる発展を祈りつつ、会はお開きとなりました。



# 軽音部

石塚 義崇 (医1回生)

1月23日、石山にて軽音部のOB会が行われました。大変寒い中、顧問の相見先生、OBの木築先生、石島先生、さらに前顧問の松田先生が参加して下さい、多くの現役部員も加わって大変賑やかな会となりました。OB会に先立って行われた軽音部の1月ライブの映像に加え、OBさんが出演された過去の学園祭ライブの映像を見ながら会は進められました。私達現役部員にとって、OBさん達の素晴らしい演奏を聴くことができたのは、非常に貴重な経験でした。また会の中で木築先生は、良い演奏をするために必要なことや、楽器の音作りについてお話し下さり、実践的な知識を多く得ることができました。今年度はたくさんの1回生が入部し、多くのバンドが新たに結成されました。来年度もより多くの新入部員を迎えられるように努力したいと思います。最後になりましたが、お忙しい中参加して下さいました先生方、本当にありがとうございました。

# 「湖医会」新役員の挨拶



会長

渡辺一良 (医2期生)

「湖医会」は来年、30周年を迎えます。

最近の学内の明るい話題を振り返ってみますと、卒業生から本学の内科教授や国立病院長が誕生しました。最近の学生さんは、西医体で優勝したり、優秀な論文を一流雑誌に書くなど、ますますアクティブになっています。そして、われらが滋賀医科大学は、数値評価で全国総合第2位に輝きました。「湖医会」はイノベーションセンターの中に新たな事務局を開設し、その拠点を確保しました。会員の皆さんがそれぞれに努力し、また相互に協力することによって、大学と「湖医会」を盛り上げてくれていることがわかります。

守山の仮校舎から始まった小さな新設医科大学が、いまこのような隆盛を築き、滋賀県はもちろん、日本全国に世界に羽ばたくまでに成長することができたのは、この大学に関わったさまざまな人の愛情と熱意が学生に注がれ、それが熟成してきた結果だと思うのです。

「湖医会」=滋賀医科大学に縁のある人々を束ねる、ゆるい集合体=のお手伝いをもう少しして参りますので、皆様のご協力をよろしく願いたします。



副会長

加藤正二郎 (医2期生)

この度、渡辺一良「湖医会」会長の指名にて、2009年11月より副会長及び幹事に就任した医学科2期生の加藤正二郎です。私は栃木県佐野市にて外科医院を開業しておりますが、「湖医会」が誇る唯一の地方部会・関東支部会の幹事も務めております。本会は、今年で第12回を迎えますが、毎年8月に開催しております。活躍中の同窓生を講師に招き、トピックな話題提供に始まり、講演後は酒も入り、和気あいの懇親会へと移り、翌日には有志によるゴルフ(若洲ゴルフリンクス)を楽しみます。

さて、OB諸氏も御周知の通り関東を含む東日本において、滋賀医大卒業生の活躍には目ざましいものがあり、同窓として大変嬉しい限りです。この事実を踏まえ本支部会は単なる親睦会に留まることなく、東方(関東)の同窓生より発信される質の高い医療・研究成果を礎に、本学との人的交流に一役を任うべきと考えます。この2年間は馬場学長をはじめ、「湖医会」から会長・副会長にわざわざ御遠方より出席いただきました。これは関東支部会に寄せられた大いなる期待の表れと捉え、今回の就任にあたり当会幹事・同志らと共に微力ながら大学発展のために最善を尽くそうと思っております。

大学はもとより関係者各位及び同窓生には、これまで以上の更なる御支援・御協力を切にお願い申し上げ、就任の挨拶といたします。

副会長

西尾ゆかり (看護2期生)



この度、副会長に就任いたしました西尾ゆかりです。看護学科2期生です。恥ずかしながら、学園祭などの活動には積極的でない学生でした。そのためでしょうか、看護学科の同期会では、若干名の旧友から「西尾が副会長?本当!?大丈夫?」というご心配をいただきました(笑)。

副会長という大役を務めるにあたり、至らぬ点多々あるかと思えます。医学科の先輩方、看護学科1期生の先輩方のご指導やご助言をいただきながら、務めさせていただこうと思えます。また、後輩の卒業生さんや在学中の学生さんたちからもいろいろなお意見を聞かせていただきながら、「湖医会」を盛り上げていきたいと思えます。

学生時代にたくさんの方々を支えられ、勉学に励むことができました。また、卒業後も5・10年という節目に同期会の支援を「湖医会」でしていただき、感謝の気持ちでいっぱいです。今後どうぞよろしく願いたします。

幹事

田中 裕之 (医16期生)



この度、幹事に就任した医学科16期生の田中裕之です。私は8年前から「湖医会奨学金」の面接官を担当しており、その流れで今回の指名を受けました。

本同窓会の冠のついた「湖医会奨学金」は公的な奨学金とは違った特色を持ちます。公的な奨学金は年度初めにしか申請はできません。しかし、家庭の経済的理由により年度の途中に学業を続けていくことが困難になる学生も少なからずおります。本奨学金はこういった学生をサポートできる可能性を持ち、大学からも期待されています。基本的には単に成績だけでなく、面接による「人」を重視します。奨学生の募集につきましては、新入生オリエンテーションや学生メール・学生ポスターでアナウンスしておりますが、本奨学金の存在を卒業生や学生に対してまだまだ周知できていない気もします。

今「湖医会」では、来年の30周年記念事業に向けて動き出しています。これを機会に、この奨学金制度を少しでも充実させ、発信していけるようにすることが自分の役割だと考えています。どうぞよろしく願いたします。

# 関東支部会報告記

vol. 11

第11回関東支部会が、去る8月29日(土)東京品川プリンスホテルで開催されました。当日の【ミニ講演会】では、東邦大学医療センター佐倉病院内科教授の鈴木康夫氏(医1期生)が、講師として招かれ、『炎症性腸疾患の診療進歩～病態解明治療のbreak-throughをめざして～』についてお話され、盛況のうちに終わりました。この関東支部会には、卒業生のご厚意により、毎年学生は、会費無料で参加しています。



～関東支部会に参加して～

東邦大学医療センター佐倉病院内科 教授

鈴木 康夫 (医1期生)



この度は、滋賀医科大学同窓会「湖医会」関東支部会で特別講演の機会をいただき心から感謝申し上げます。私自身は今までに機会がなく関東支部会には初めての参加でしたが、卒業以来の懐かしい同窓後輩諸氏との再会を果たし、大変に感激をいたしました。さらに、馬場学長が登場され、滋賀医科大学の近況や今後のあり方にご報告され質問に対して丁寧にお答えいただいたこと大変感動いたしました。馬場学長に続き、私のライフワークである炎症性腸疾患診療の中で特に新規治療法の確立に関する講演をさせていただきます。同分野の権威馬場学長の面前での講演は大変に緊張し、稚拙な講話で参加者の方々に有益だったか大いに疑問でしたが、後日馬場先生から「いい話だった」とのお言葉をいただき、今ではほっとしています。講演後の立食会に引き続き、旧交が大いに温められた二次会まで企画された素晴らしい支部会でした。ここに改めて、会の運営や企画にご苦労された幹事の先生方に深く御礼を申し上げます。

\*\*\*\*\*

「湖医会」副会長

中島 滋美 (医2期生)



8月29日に「湖医会」本部代表として関東支部会に参加してきました。会場入り口付近で、すでに懐かしい顔ぶれに会い、とてもうれしい気分になりました。会は、まず関東支部会会長の1期生久保田先生からの挨拶で始まり、ついで滋賀医科大学学長の馬場先生から大学の近況が紹介されました。馬場先生からの話が終わると会員から多数の質問があり、支部会会員の関心の高さが伺えました。馬場先生もたいへんうれしそうに応答されていました。次に、東邦大学医療センター佐倉病院内科教授になられた1期生の鈴木先生からご講演がありました。180床もの内科病床を有している全国一の炎症性腸疾患のセンター病院で難治性疾患の新しい治療ポリシーを考案し、検証していく様子が紹介され、たいへん感銘を受けました。「湖医会」会員としてたいへん誇りに思いました。また、滋賀医大とも共同研究をされているとのことで、卒業後も母校と関係を持ってくださり、うれしく思いました。懇親会では、支部会幹事の久保田先生(1期生)、加藤先生(2期生)、河野先生(2期生)、河崎先生(8期生)らから、支部会創立と継続の意義を聞かされ、幹事の先生方の熱意に感銘を受けました。懇親会でも盛り上がり、たいへん盛況でした。幹事の先生方によると、「湖医会」は関東以外にも積極的に支部会を作るべきだということでした。本部としても、全国に支部会を作るサポートを積極的にしていく必要があるのではないかと感じました。支部会を継続されている幹事の先生方、参加されている会員の方々、そして馬場先生に感謝申し上げます。



鈴木氏の講演を熱心に聞いてます



馬場学長もご参加されました

# 関東支部会に 参加して

## 学生さんの声をお届けします



関東支部会に参加させて頂きありがとうございました。鈴木先生の講演をはじめ、先輩の先生方の診療や研究についてのお話を伺うことができ、大変勉強になりました。親しみやすい雰囲気の中で、先生方に色々質問でき、貴重なアドバイスなども頂くことができました。

(医3回生 野田 晶子)

関東支部会に参加させて頂きありがとうございました。貴重な講演や先生方の楽しいお話などを聞いて大変有意義な支部会でした。私は途中で帰ってしまったので、もう少し長い間先生方とお話したかったなあと少し残念に思います。来年も機会があれば参加したいと思います。このような貴重な体験をさせて頂き本当に感謝しています。ありがとうございました。

(医4回生 細尾 咲子)

関東支部会に参加させて頂きありがとうございました。これまでも、関東支部会に初めて参加させて頂きました。これまで、このようにたくさんの先輩方にお会いする機会はほとんどなかったのですが、先輩方の方から話しかけてきてくださり、また関東でのご活躍の様子など、滋賀にいる時とはまた一味違う様々なお話を伺うことができました。とても貴重な機会となりました。このように関東支部会を設けてくださった皆さま、また、いらしてくださった先輩方、本当にありがとうございました。

(医4回生 朴 鮮玲)

毎年の関東支部集会の目玉のひとつは、卒業生の先輩医師による講演会です。今回は、東邦大学医療センター佐倉病院鈴木康夫教授が、IBDの最先端の治療戦略についてお話し下さいました。ちょうどポリクリで消化器内科・外科を回った後だったこともあり、非常に面白く興味深い内容でした。鈴木先生が現在の治療を見出されるまでの経過がリアルな言葉によって展開され、ワクワクしながら拝聴させて頂きました。また、臨床研究とはこのようにして進めていくものなのだということがイメージでき、将来の進路選択のひとつのヒントにさせて頂くことができたことも、大きな収穫であったと思っています。個人的には、一昨年に初参加して以来の2年ぶりの参加でした。前回この会で御挨拶させて頂いた先生方と再会し、講演会後のパーティでじっくりお話しさせて頂いて本当に楽しかったです。また来年も参加したいと思っていますので、糖尿病代謝内科志望の女子学生がいたなあと頭の片隅に覚えておいてくだされば大変嬉しく思います。このような機会を与えていただいた「湖医会」関係者の皆様に、心からお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

(医5回生 木内 久美)

8月29日、「湖医会」関東支部会に参加させて頂きました。まだ一回生ということもあり、少し早すぎたかなと思ったのですが、気さくに話して下さるOBの先生方とお話させて頂くことができ、とても楽しい時間を過ごすことができました。自分の進路についてある程度具体的に考えられるようになってからまたぜひ参加させて頂きたいと思っています。今回は貴重な機会を与えていただき有難うございました。

(医1回生 野崎 有沙)

関東支部会に参加させて頂きありがとうございました。ちょうどマッチング試験などで進路を考える時期であったため、自分の志望する科の先生方から具体的なお話を伺え、大変参考になりました。講演も大変興味深く、勉強になりました。このような貴重な機会を学生にも与えてくださり、感謝いたしております。自分もゆくゆくは後輩のために役立てようになりたいと思いました。このたびは本当にありがとうございました。

(医6回生 林 亜輝子)

関東支部会に参加させて頂き、どうもありがとうございます。会ではOB、OGの先生方が親身になっているとお話して下さり、非常にありがたく思いました。伺ったお話を忘れずに、これからの学生生活を送ろうと思っています。本当にどうもありがとうございました。

(医4回生 黒田 瑞江)

# 宮本和寿氏

(医一期生)

# 山下眞木夫氏

(医二期生)

# を偲んで



医療法人清心会 もりの内科循環器科

森野 元次 (医1期生)

2009年12月23日、宮本和寿君が54歳という若さで突然の事故のために急逝しました。医学部の1期生として水戸から滋賀県に来た宮本君とは、国家試験を目指す勉強会で思い出深い貴重な一時期を共にしましたが、いつも論理的に問題点を解説してくれた眼鏡の奥のまなざしとやさしい笑顔が、今も胸に浮かびます。国家試験終了日の打ち上げ後には飲み過ぎて、終点の野洲駅まで電車を乗り過ごし、引き返す際に勉強の資料など一切を電車の中に置き忘れたということがありました。

卒業後は千葉大学の整形外科に入局し、1990年から20年近くにわたって、千葉県の国立病院機構下志津病院の整形外科に勤務していました。医師としては円熟期を迎え、後進を育てつつ組織をリードしていく立場で、今後の活躍が期待されていたと思われるだけに、道半ばでの訃報は痛恨の極みです。

病院の近くで行われた葬儀には、知らせを聞いて俄に平服のまま車椅子で参列された患者さんもおられ、医師としての彼の日常を深く窺い知ることが出来ました。

謹んで宮本和寿先生のご冥福を心からお祈り申し上げます。

「湖医会」会長

渡辺 一良 (医2期生)

山下さんが急逝された。同期の一人として振り返り、偲びたいと思う。

山下さんは京大を卒業してから本学に入学したいわゆる“長老組”の一人だったので、皆から‘さん’付けで呼ばれていた。しかしとても若々しく、京大時代にはホッケー部でグラウンドを走り回っていたこともあり、ラグビーにも興味があつて、希望ヶ丘で行われたラグビー部の試合に出場してくれたこともあった。あとで長老組の一人から、「君らとは違うんやから、彼をラグビーのような危険なスポーツに引き込むな」と釘を刺されたが。

学生時代の忘れられない思い出がひとつある。臨床実習に先だって説明会が食堂で開催されたときのこと。細田教授から身だしなみ、挨拶や言葉遣い、遅刻しないこと、等々の注意が話された。一通り説明が終わって「何か質問は？」と言われると、山下さんがすくっと立ち上がり発言した。「我々は医師を目指して学問をしてきた20歳を超えた医学生である。いま話されたような注意は不要だし、我々を子供扱いたいもので失礼ではないか。大人としてもっと本質的な議論をお願いしたい。」と。これには細田先生も脱帽し、「学生の皆がそうであればいいのだけれど、いやそうであると期待しよう、失礼だった。」という意味のやりとりがあった。彼の意見を聞いて、自ら襟を正さねば、と自覚したためかその場面をいまだに鮮明に記憶している。

私にとって山下さんは、物事の本質を見極めたいという科学的態度がいつも感じられ、しかも人格は高潔で公平、という、いわば“人生の先輩”だった。

卒業後は「湖医会」の運営にも力を貸してくれた。幹事会を開くと議長を引き受けて、明晰な頭脳でさばさばと議事を進行してくれたことは、まだ記憶に新しい。

「湖医会」の皆さんとともに、山下さんの冥福を祈りたい。

てはらクリニック

川崎 久樹 (医2期生)

山下眞木夫君、君が突然鬼籍に入ったなんて私には未だに信じられない思いだ。暦が早や十二月を残すのみとなった頃、突然の夜の電話は奥さんから君の意識不明の重体を知らせるものだった。面会謝絶と聞いていたが、ご家族の取り計らいで会わせてもらった君は、変わり果てた姿でレスピレーターに繋がれていて愕然としたよ・・・

思えば2期生として医大に入学後、偶然にも同じ年で京大卒と分かり親しくなった。若い同級生に混じり2度目の大学生生活を過ごせたのも君との友情のお陰だ。互いの実家を何度も行き来し、一晚中、語り明かしたこともあった。卒後の進路で私が悩んだあげく小児科を選んだのも、最終的には君の「小児科にしろ」の一言だった。君は第3内科に、私は小児科に入局して二十数年互いに忙しく、つつい疎遠になってしまっていたが、私が開業して間もない頃、糖尿病の患者について相談したら適切なアドバイスをくれ、持つべきものは親友だと心強く思ったものだ。

最近では、日野記念病院の副院長として活躍していると聞いていたのに・・・私生活では陽子さんという才色兼備の女性を娶り、長く待ち望んだ子供も一度に男女ふたりの子宝に恵まれた。家内と一緒に花束を持ってお祝いにいった日の君の満面の笑顔が忘れられない。

因らずも君が倒れた日とほとんど時を同じくして、私も玄関先で転び顔に怪我をした。運命の明暗を分けたのは何なんだろう。最愛の家族を残してゆくのは、さぞや無念だったろう。君のシャイな笑顔が思い泛んでならない。合掌。

磐田市立総合病院理事

寺田 雅彦 (医3期生)

故山下眞木夫先生は1982年に滋賀医科大学を卒業後、旧第三内科学講座に入局し、翌年には当時吉川隆一元学長がグループヘッドをつとめていた神経グループに所属しました。私も1983年に卒業後、旧第三内科に入局し神経グループに配属されたので、先生は大学、医局、研究グループの1年先輩になります。そんなこともあり、先生からは一般内科臨床、神経内科診療および研究を直接指導していただきました。

先生の印象は落ち着いていて、精神が安定しているということでした。先生は私たちを指導する際、感情的にならずいつも冷静かつ敬意を表する態度で接してくれました。そんな先生の言葉は自然に当時の私の胸に届きました。もう一つ印象的なのは先生の大きくきれいな字と簡潔明瞭な記載です。先生の診療録は本当に読みやすかったのを良く覚えています。

先生が日野記念病院に移られてからは、同窓会や神経グループの忘年会で年に1回程度しか会う機会はありませんでしたが、そんな時には気さくに話しかけていただきました。

先生はまだまだ若く、これからも地域医療や後進の指導に活躍される方であったと思うと今回の訃報は残念でなりません。山下先生の滋賀医大、日野記念病院での診療、教育に対する多大なご貢献に心から感謝し、ご冥福をお祈り申し上げます。

看護学科 2 期生が母校を巣立って 10 年が経ちました。  
 恩師の先生を含め、43 名の出席者で盛会に開催されました。  
 「5 年同期会」から「たった 5 年」の短い月日のように思われますが、  
 2 期生の皆さんは、公私ともに大きな変化があったようです・・・

卒後 10 年同期会

看護学科

2 期生



皆さんのご活躍嬉しいです!

今本 喜久子

12 月 5 日、京都駅近くのホテルで開催された看護学科 2 期生の卒後 10 年同期会に参加し、40 名近い卒業生や当時の先生方のお陰で楽しい時間を持てました。

私は 2 期生が第 2 学年の時に主担任をしましたので、このクラスの有志とは初冬の信楽高原をハイキングしたり、年末のクラスコンパでお鍋を囲んだり沢山の思い出が残っています。それでも 10 年ぶりの再会ですので、似ているようでどこか違う大人びた皆さんの横顔に当初は戸惑いを感じました。テーブルごとに近況報告を聞かせて頂いているうちに、学生時代の面影が甦り、懐かしくも楽しい時間を共有できたのです。

看護や保健行政の職域で中堅として大活躍されている皆さん。今は子育てに奮闘中の皆さん。皆さんの全身に自信が溢れており、高齢者層に仲間入りした私には眩しい位に輝いていました。努力ばかりではない筈ですが、皆さんには苦しいこと、辛いことを自然体で明るく乗り越えてゆくパワーを感じました。どうぞ、健康に気を付けて肩肘張らずに頑張ってください。今回お出合いできなかった方々とも、次回の卒後 20 年同期会には是非お会いできることを願い、私も健康寿命を長く保つように頑張るつもりです。

滋賀医科大学看護学科第 2 期生  
 卒後 10 年同期会



竹尾 恵子

去る 12 月 5 日(土)、滋賀医科大学看護学科第 2 期生の卒後 10 年同期会が、京都駅前のホテル京阪京都、桜の間で開催されました。昨年は看護学科第 1 期生同期会に出席できなかったため、今年は是非とも教え子たちの顔が見たいと思い、出席させていただきました。思えば私が滋賀医大を去って 12 年になるのです。過ぎていった長い時間とさまざまな出来事を思い、感慨にふけりながら会場に到着しました。会場では「先生!」と声をかけられ、定かに一人ひとりのことを思い出せないながら、それでも、少しずつ記憶をたどりながら、しばし楽しい時間を過ごさせていただきました。先生方では、解剖の今本先生が艶やかな和服姿でご出席くださり、その他、徳川先生や泊先生、遠藤先生などもご出席くださっていました。当時学生だった 2 期生たちは、仕事上では 10 年選手、中堅としての責任を担っているエネルギーと自信が感じられ、頼もしく、こうした姿を見るのはなんとも嬉しいものです。また、当然子育て真最中の方々もいて、会場は駆け回る子供たちで賑やかで、これもまたこの時期の 2 期生たちのひとつの姿なのでしょう。

次回は 10 年後に卒後 20 年同期会を開くということで、再会を約して、閉会となりました。さて、私はそのときまで生きていられるかどうか、はなはだ心もとないのですが。



10 年分の輝き

小野田 真由美

同期会って不思議です。卒業してから 10 年も会っていないのに、すぐに学生の頃に戻ることができます。

久しぶりに会ったみんなは、学生の頃よりもっと綺麗でキラキラしていました。進んだ道も積み重ねてきたものも様々ですが、みな同じように 10 年分の経験がプラスされ、自信となり輝きになっていると思いました。それから、大学を退官されてもなお看護教育に携わっていらっしゃる先生方の凛々しさにも感激してしまいました。

私の 10 年は、就職・転職・結婚・出産とめまぐるしく状況が変わった 10 年間でした。悩んで苦しくて逃げたくなるときもありましたが、精一杯頑張ってきたと思います。今思えば、すべてのことが私の財産になり自信につながっていることに気がつきました。

現在育休中でのんびりしている私は、頑張っているみんなの近況を聞いて、少し焦ってしまったところもありましたが、今は、少し肩の力を抜いて、子どもとの生活を中心にスローペースでやっていきます。

10 年後、さらに輝きを増したみんなに会えることを楽しみにしています。そして、私も先生方のように、いつまでも凛々しくあるために自分磨きもしていきたいと思います。

嬉しい再会

市川 あかり



「キャーッ!! 久しぶり!!」「全然変わってへんなあ~!!」懐かしい顔ぶれに、黄色い歓声が飛び交う。一瞬にして、10 年前の大学時代に帰った。

1 人 1 人が近況報告をすると、その度に「おおーっ」とどよめきがおこる。

主婦になった人、仕事と家庭の両立に奮闘する人、ずっと同じ職場で頑張っている人、転職し新たなキャリアを積んでいる人、進学した人、中には主婦と仕事と学生の 3 足のわらじを履く強者も。変わってないように見えてもこの 10 年、みんなそれぞれの道で頑張っているんだなあ・・・気がつくとも目が潤んでいた。懐かしい場で、とても新鮮な感動と刺激を受けた。

次回は 10 年後、その時私はどんな近況報告ができるのだろうか? みんなに負けず、私も私の道を頑張って進んでいかなうては。

最後になりましたが、お忙しい中御出席くださった恩師の先生方、同期会開催に尽力して下さった「湖医会」事務局の皆様、幹事の皆様、本当にありがとうございました。

## 保健師部会 交流会

2009年12月5日(土)、毎年恒例の『保健師部会』が行われました。もともと『保健師会』として1期生の卒業後、県内の保健師が集まりスタートしたのですが、2006年に「湖医会」『保健師部会』になりました。これにより「湖医会」は案内・報告の送付やMLの運営等のサポートをしています。同窓の保健師の集まりということで、仕事に対する気概や悩みなども自由に話せ、貴重な情報交換の場にもなっています。また、昨年に引き続き、亀田諭可さん(看3期生)が『保健師部会』会長を引き受けて下さり、これからの活躍を期待しています。当日の幹事さん二人に感想を尋ねてみました・・

### ～保健師部会に参加して～

愛荘町保健センター

安土 裕美子 (看11期生) 写真左



湖南市健康政策課

脇田 留梨子 (看11期生) 写真右

昨年は、保健師として働く卒業生の方の交流会があることを知り、先輩方のお話が聞けたらなぁと初めての参加にドキドキしながら会場へ向いました。卒業して半年が過ぎ、社会人としても保健師としても日々至らない事だらけで、これをどうやって乗り越えていけばよいのか・・と悶々とした気持ちを先輩方に聞いていただき、さらにアドバイスや励ましをもらい、元気になって帰ったことも思い出です。

そして、今年は幹事の学年ということで、昨年私が元気をもらって帰ったように、参加して下さる皆さんが楽しんで帰ってもらえるような交流会ができたらなぁと思っていました。

今回は少人数のアットホームな雰囲気の中で開催されました。先生やベテランの先輩の方から新人の方までさまざまな方が参加してくださり、いろんな話に花が咲き、和気あいあいとした雰囲気の中で楽しい時間を過ごすことができました。また、質問票を元に話された質問コーナーでは、泊先生のお話や経験豊かな先輩方のお話を聞くことで、それぞれの分野の保健活動や現状、そして今後の地域保健活動へ向けてなど奥が深く、とても有意義な話を聞くことができました。

最後に、今回の交流会を開催するにあたり、ご尽力いただいた滋賀医科大学同窓会「湖医会」の皆様にお礼を申し上げるとともに、今後も保健師部会のさらなる発展に向けて、微力ながらお役に立ちたいと思います。

保健師交流会への参加は今回が2回目になります。初めて参加をしたときは保健師として働き始めて半年ほどでしたが、県内外問わずさまざまな分野で活動されている皆さんとの情報交換が大切であることを改めて実感し、その存在を心強いなと感じる交流会であったことが印象的でした。

今回、幹事担当学年ということで不安もありましたが、皆さんのご協力のおかげで無事行うことができました。参加者は先生を含め9人で、保健師として豊富な経験をされてきた方と、卒後3年以下の新人期にある方の二つの層に分かれていましたが、終始アットホームな雰囲気でした。

途中行った質問コーナーでは、保健師に関することからプライベートなことまで、幅広い質問が先輩後輩のお互いに投げかけられました。私は今回、楽しく過ごすことができたのは、前回同様もちろんですが、経験をもとにした具体的なアドバイスを受けて、保健師として今後の見通しに大変参考になったり、2年目の中で悩むことにも、同じ思いの仲間がいることに少しほっとしたり、またモチベーションを上げることができるような、有意義な時間を過ごすことができました。自身を振り返る貴重な機会とも言え、また次の保健師部会でみなさんのお話を聞くのを楽しみにしながら、まずこの1年を頑張りたいという思いです。

最後になりましたが、今回の交流会を開催するにあたり、丁寧なサポートをしていただいた滋賀医科大学同窓会「湖医会」の皆様感謝いたしますとともに、今後の保健師部会から保健師の輪が広がり充実したものとなるよう尽力したいと思います。



### 第9回『湖医学会賞』

締切：2010年5月31日

## 候補者の推薦を受付中!

教育領域  
研究領域  
臨床・福祉領域  
その他の領域

ホームページでも案内しています <http://www.koikai.org>

各分野で活躍する卒業生をご推薦ください。  
今回から他薦のみになりました。

#### 『湖医学会賞』とは・・・

学生等の教育や研究、地域医療等の臨床・介護・福祉、その他の領域で優れた実践を行い、医学および医療・福祉の向上に貢献した「湖医学会」会員に対して、賞状ならびに副賞(20万円)をもってその栄誉を称えるものです。  
ただいま、第9回候補者の推薦を受け付けています。多数ご応募ください。

**応募方法** 所定の推薦書に必要事項を記入のうえ、事務局までお送りください。  
FAX 077-548-2094 または メール [koikai@koikai.org](mailto:koikai@koikai.org)

### 第62回「西医体・西コメ等」応援キャンペーン応募方法

- 一口・・・¥3,000
- 振込先・・・関西アーバン銀行草津南支店  
店番号 213  
普通 口座番号 579431  
滋賀医科大学同窓会、湖医学会学生サポート (シール例)
- 申し込み・・・[koikai@koikai.org](mailto:koikai@koikai.org)に下記■の項目をご記入のうえお申し込みください!  
■口数、ご自身の氏名・期生・勤務先、差し入れてあげたいクラブをお知らせください。
- 締切・・・7月1日(木) <http://www.koikai.org/> にも掲載しております



訃報  
前田敏博先生(本会特別会員、滋賀医大名譽教授)が、2月5日逝去されました。謹んでお悔やみ申し上げます。



ご案内

## 平成21年度 卒業祝賀会

日時：2010年3月25日(木)

13:00~14:30

場所：滋賀医大福利棟1階食堂

卒業式終了後、毎年行っています祝賀会にぜひご参加ください!

### メールアドレスをお知らせください

会員のみなさまへの情報提供は、「湖医学会」マンスリーメール(毎月末)等、メールで配信する機会が多くなっています。まだ「湖医学会」に登録されていない方は、ぜひ[koikai@koikai.org](mailto:koikai@koikai.org)にご連絡ください。  
(マンスリーメールが、文字化けしている場合は、文字(テキスト)エンコードを日本語「ISO-2022-JP」または「JIS」等で一度お試しください。)

### ご寄付のお礼

## 看護学科2期生

同期会の余剰金を「湖医学会」奨学金に充当させていただきました。

ありがとうございました。  
厚くお礼申し上げます。



### 末松 義弘 (医14期生)

平成20年1月に当科(筑波記念病院心臓血管外科)を立ち上げ、症例数も順調に伸びております。また、全国でも数少ない補助人工心臓治療を積極的に行っております。循環器以外でも地域の基幹病院として更に貢献すべく、全国より人材を募集しております。当院で勤務希望の方がおられましたら、内科・外科・研修医問わず、お気軽にご連絡下さい。

### 上田 恭子 (看7期生)

市の保健師として高齢者の健康増進事業に携わっています。悩むことも多いですが、地域の方との出会いを楽しみに訪問活動に励んでいます。

在学生から

## 第51回定期演奏会を終えて

滋賀医科大学管弦楽団団長

野村詠史 (医3期生)

昨年の暮れ、12月5日にわが管弦楽団は、第51回定期演奏会を開催しました。周辺地域はもちろん、滋賀県の他地区や県外からも多数のお客様にお越しいただき、ホール内は音楽のもたらす喜びに満たされました。ステージ上も客席も、いずれも10代から60代、客席には70代以上の方もいらっしゃり、あらゆる世代、環境の人々が音楽に酔いしれ、まさに音楽の愉しみの前にはあらゆる垣根が存在しないのだと感じられました。

団員も、半年間という短期間でクラシックの難曲といわれる曲を練習し、演奏会をセッティングしています。学業との両立はもちろん容易なことではありませんが、やはりあのホールで多くのお客様と感じる音楽の愉しみを心待ちにしながら努力を重ねてきました。

半年に一回のこの演奏会、次回は6月に開催します。わが管弦楽団はこれからも、音楽の愉しみをできるかぎり多くの方々と共有すべく活動して参ります。

ご協賛  
ありがとうございます

サノフィ・アベンティス株式会社